

特定外来生物

# ツヤハダゴマダラカミキリ

昆虫綱 コウチュウ目 カミキリムシ科 *Anoplophora glabripennis*

生態系被害防止  
外来種リストの区分

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

爬虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

## 基礎情報

### 原産地

- ・中国東部から朝鮮半島

### 現在の分布

- ・世界では、オーストリア、フランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、スロバキア、アメリカに侵入している。
- ・国内では、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、富山県、愛知県、兵庫県、山口県で確認されている。
- ・県内では、名古屋港から天白川沿い、矢作川沿いで確認されている。豊橋市においても、本種のものと思われる街路樹への加害が確認されている。



### 侵入の経緯

- ・2002年に神奈川県横浜市で発生したが、2004年9月までに防除された。2021年に兵庫県神戸市で定着が確認され、その後、本州各地で定着が確認されている。
- ・梱包用木材に付着して国内に侵入した可能性が指摘されている。
- ・本県では、主に天白川、矢作川などの河川沿いに分布を拡げている。

### 形態

- ・体長 17~40mm で、特に 30mm 前後のものが多い。
- ・体全体は光沢のある黒色で、サテンのようなつやが見られる。背面には白色の斑紋がある。成虫の前胸背板(首に見える部分)の両側面にとげ状のコブをもつ。
- ・触角は黒色と淡青色の縞模様で、オスは特に長い。
- ・幼虫はイモムシ状で樹木内に入り込む。



生息環境

・市街地の街路樹や公園等の樹木、河畔林などでの生息が確認されている。

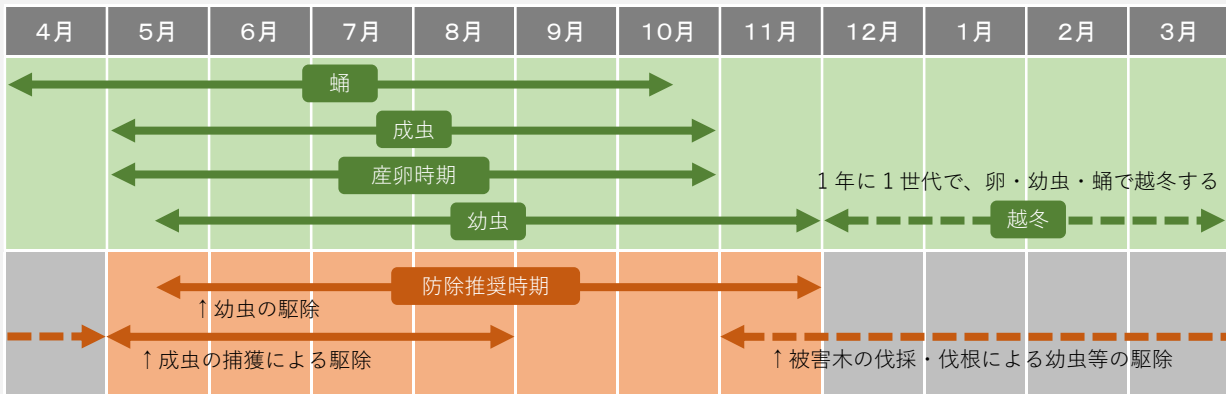
生態・ライフサイクル

- ・アキニレなどのニレ属、カエデ属、ヤナギ属などの樹木に穿孔し、加害する。県外・海外の事例では、他にトチノキ属、カバノキ属、ハコヤナギ属(ポプラ)、ハンノキ属、ネムノキ属、グミ属、センダン属、クワ属、スズカケノキ属(プラタナス)、リンゴ属、サクラ属、ナシ属などへの加害が確認されている。
- ・幼虫は、樹木の生木(形成層付近の辺材)を摂食し、フラス(フンと木くずが混ざったもの)を排出しながら樹体内で成長し、蛹となる。
- ・幼虫は、成長とともに心材に近い位置に移動し、蛹化の際は心材に近い位置に部屋を作る。
- ・蛹は5月～10月に成虫となり、特に5～8月に多く見られる。成虫は脱出孔から樹体外に脱出する。
- ・メスの成虫は交尾後、幹や枝にすり鉢状のかみ傷をつけ、その窪みに1個ずつ産卵する。卵は2～3週間でふ化し、新しく生まれた幼虫は樹体内に食入する。メスは、1頭あたり45～62個の卵を産む。
- ・成虫の寿命は、オスが3～50日、メスが14～66日程度。1年に1世代で、卵、幼虫、蛹で越冬する。



被害を受けた樹木(アキニレ)

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

・類似種として、ゴマダラカミキリ(在来種)がいる。

ツヤハダゴマダラカミキリ (特定外来生物)	ゴマダラカミキリ (在来種)
②前胸部に白斑がない	②前胸部に1対の白斑
①細かい突起や点刻がない	①細かい突起や点刻がある
③小盾板に白斑がない	③小盾板に白斑がある
①前翅のつけ根は滑らか(「ツヤハダ」の由来)。	①前翅のつけ根に細かい突起や点刻がある。
②前胸部に白斑がない。	②前胸部に1対の白斑がある(個体によっては薄い)。
③小盾板(左右の前翅のつけ根の間)に白斑がない。	③小盾板に白斑がある(老いた個体ではかすめる)。

- 哺乳類
- 鳥類
- は虫類
- 両生類
- 魚類
- 昆虫類
- 甲殻類
- クモ類
- 貝類
- 植物



## 影響・被害

- ・幼虫が生きた樹木の内部に入り込み樹木の内側を食い荒らす。本県では、現在のところアキニレ、カエデ類、ヤナギが主な被害樹種だが、幅広い植物を幼虫の食樹とするため、他の樹種にも被害が広がる可能性がある。
- ・公園樹木や街路樹が加害されると景観が悪化し、枯枝が落ちて人がケガをするおそれがある。本種は、枝先などの高い位置から穿孔するため、被害が深刻になるまで気づきにくい。
- ・リンゴ属、ナシ属、バラ属等は、農産物として全国的に栽培されており、食害等による農林業への被害のおそれがある。
- ・在来カミキリムシ類との食樹の競合など、生態系への影響が懸念される。
- ・在来のゴマダラカミキリとの繁殖干渉の可能性が確認されており、在来種への悪影響が懸念される。

## 生息・被害の確認方法

- ・アキニレなどの樹木の幹や枝を目視し、成虫のほか、成虫脱出孔や産卵痕の有無を確認する。
- ・過去に成虫が羽化したことがある木には成虫脱出孔(円形で直径 1.0~1.5cm)がある。在来のゴマダラカミキリの脱出孔が地際から高さ 20cm くらいまでの根元に集中するのに対し、本種の場合は樹木のより高い場所(地上 2~5m)も含めて、幹や枝全体に広く見られるのが特徴である。
- ・メスの成虫が産卵した木には産卵痕(すり鉢状で直径 1.0~1.5cm)がある。在来のゴマダラカミキリとの違いは、脱出孔と同様に樹木のより高い場所も含めて、幹や枝全体に広く見られる点である。
- ・アキニレなどの根元を目視し、散乱・堆積するフラス(フンと木くずが混ざったもの)の有無を確認する。本種のフラスは、ふ化後しばらくは黒褐色の細かい糸くず状のものが産卵痕から排出され、その後、幼虫の成長とともに白く粗い木くず状に変わる。在来のゴマダラカミキリのフラスとの識別は困難。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域住民や公園・街路樹の管理者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。

成虫脱出孔



- (写真提供:戸田尚希氏)
- ①直径 1.0~1.5cm の円形。
  - ②高い場所まで広く見られる。

産卵痕



- (写真提供:戸田尚希氏)
- ①直径 1.0~1.5cm のすり鉢状。
  - ②高い場所まで広く見られる。

フラス



- ①白く粗い木くず状。
- ②繊維質を多く含む。

## 防除方法

- ・成虫は、見つけ採りや樹木へのネット巻き付け等により捕獲する。または薬剤散布により駆除する。
- ・幼虫は、被害初期の樹木については、刺殺や掘り取り、薬剤の注入により駆除する。
- ・被害が大きい樹木は、被害木を伐採したのち、破碎・焼却・くん蒸により樹体内の幼虫を駆除する。

## 推奨時期

- ・成虫は、5~10月の発生時期(5~8月に特に多く発生する)に防除する。
- ・幼虫は、幼虫の動きが活発になり、フラスを排出する5~11月の防除が推奨される。
- ・被害木の伐採は、拡散を防ぐため成虫の発生しない時期(11~4月)を行う。

## 具体的な防除方法

対象	方法	概要	留意事項
成虫	見つけ探り	野外で成虫を見つけたらすぐに捕獲・殺処理する。殺処理は、踏みつけあるいはハンマー等を使用する。	捕獲の際に手指を咬まれケガをするおそれがあるため注意する。
	樹幹へのネット巻き付け	成虫の羽化前に樹幹にネット(目合 4mm 以下の防風ネットなど)を巻き付ける。定期的に見回り、羽化した成虫がネット内にいれればすぐに捕獲・殺処理する。殺処理は、踏みつけあるいはハンマー等を使用する。	捕獲の際に手指を咬まれケガをするおそれがあるため注意する。 ネット上端はひもやガムテープで、ネット下端はペグ等で地面に固定する。 樹体からの脱出時に噛み切られないよう、幹とネットの間に隙間を作るように巻く。
	樹幹への薬剤散布	成虫発生時期に調整希釈した薬剤を木全体に複数回散布する。	薬剤使用時はゴーグル、マスク、雨合羽などを着用する。
	成虫脱出孔の封鎖	幼虫は蛹室をつくと同時に、羽化後に脱出するための孔(脱出孔)を作る。羽化より前に、樹木切口被覆材などで脱出孔にフタをして脱出を防ぐ。	—
	生物農薬	昆虫病原性糸状菌が付着した不織布を樹幹の分枝部分等にかけて設置する。成虫が触れることで感染し、約 2~3 週間で死亡させる。	生きている菌を使った製剤のため、入手後すぐに使用する。
幼虫	刺殺	フラス排出孔からフラスを掻き出し、長い針金などを入れて孔の先端にいる幼虫を刺殺する。	フラス排出孔が屈曲し、針金が届かないことがある。
	掘り取り	ノミやドライバーでフラス排出孔周辺の樹皮を剥ぎ、新鮮なフラスが詰まっている方向に樹皮を剥ぎ続けて、孔の先端にいる幼虫を掘り取る。	樹体を傷めるリスクがある。
	フラス排出孔への薬剤注入	フラス排出孔からフラスを掻き出し、薬剤を注入して孔の中の幼虫を駆除する。	薬剤使用時はゴーグル、マスク、雨合羽などを着用する。
	樹幹への薬剤注入	樹幹の地際に注入穴を開けて薬剤を注入する。幼虫は吸い上げられた薬剤を含んだ木質部を食べることで死亡する。	既に弱っている樹木では、薬剤の拡散・浸透が進まない可能性がある。 蛹には効果がない。
	生物農薬	天敵線虫製剤を隣接するフラス排出孔から注入し、樹体内の幼虫を殺虫する。	乾燥や高温は線虫の活性の低下を招くため、処理時は曇天が望ましい。
被害木(伐採木)	破碎処分	現地でチップパーにより破碎処分する。または、伐採木を防風ネットまたはビニールシートで覆って逸出防止措置をした上で近隣のチップ工場に運搬し、破碎処分する。	チップの厚さは 10mm 以下程度とする。可能であれば同時に伐根して破碎処分する。
	焼却処分	伐採木を防風ネットまたはビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で焼却施設に運搬し、焼却処分する。	可能であれば同時に伐根して焼却処分する。
	くん蒸	伐採木全体をシートで覆い、ガス漏れしないように密閉して、くん蒸処理をする。幼虫は呼吸によりガス化した薬剤を取り込み死亡する。	気温が低い時期や日陰の場合は、くん蒸期間を長くする。周囲への影響に配慮する。

## 作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・伐倒した被害木等は、放置せず、速やかに処分する。内部に生きた幼虫がいる樹木を運搬することは、地方公共団体が処分のために一時的に行う場合や、ボランティア等が小規模に行う場合(条件あり)は特定外来生物の飼養等禁止の例外規定に該当する(事前に規定をよく確認すること)。
- ・薬剤を使用する際は、薬剤ごとに定められた使用対象、使用方法、使用回数に関する制限を守り、周辺環境に配慮し、飛散防止を徹底する。
- ・鋭いアゴで手指を咬まれケガをするおそれがあるため、手でつかむ際には背中から持つようにし、保護手袋(軍手等)を着用する。

## 出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 昆虫類 > ツヤハダゴマダラカミキリ (国立研究開発法人 国立環境研究所)  
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60310.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 昆虫類 (環境省 自然環境局) [https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/6hp\\_konchurui2.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/6hp_konchurui2.pdf)
- ・特定外来生物等の選定作業が必要と考えられる外来生物に係る情報及び評価(案). 第 13 回特定外来生物等分類群専門家グループ 会合(昆虫類等陸生節足動物) 資料 2(環境省 自然環境局,2023)
- ・外来種ツヤハダゴマダラカミキリの被害モニタリング等について (林野庁,2022)
- ・令和 4 年度ツヤハダゴマダラカミキリによる被害や防除方法等に関する調査事業実施報告書(林野庁,2022)
- ・愛知県におけるツヤハダゴマダラカミキリの発見と侵入状況. 豊橋市自然史博物館研究報告 32: 35-40. (長谷川道明・戸田尚希・萩野典子,2022)
- ・ツヤハダゴマダラカミキリにご注意ください! (愛知県 自然環境課) <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/tsuyahada202206.html>